


沐浴方法

よくよく
沐浴のポイント

- 室温は20℃↑
(お湯は38℃~40℃)
- 時間帯(あまり夜遅くは×)
(ミルクを飲んで1時間後)
- 赤ちゃん チェック



5℃↑は中止
状態は?
いますか?

ふろに入ろうね
熱はどうか?





* 目頭から目尻に向かって、上と下の瞼をガー

ぜの面を変えて拭きます。赤ちゃんの頸はぐらぐらしているので反対の手で支えながら拭きます。



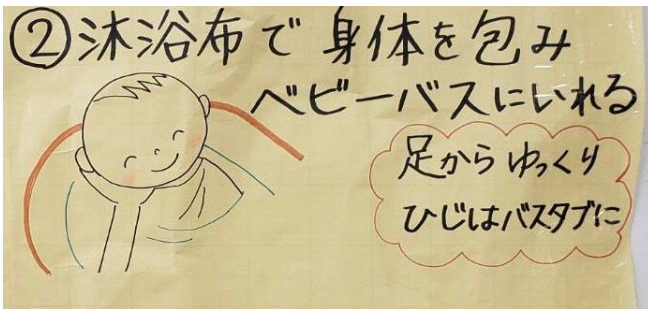
* お顔はガーゼの面を変えながら、8の字や3の字を描きながら拭きます。



*お洋服を脱がせます。脱臼しないよう手足や関節の動きに注意して、お洋服を動かして脱がせます。
(「⑧衣類を着せる」の項目を参照)

*紙パンツを外します。お尻拭きで便をふき取ります。
辜丸の裏や会陰部の隙間にたまりやすいので優しく丁寧に拭き取りましょう。

*会陰部は前から後ろに向かって拭きます。

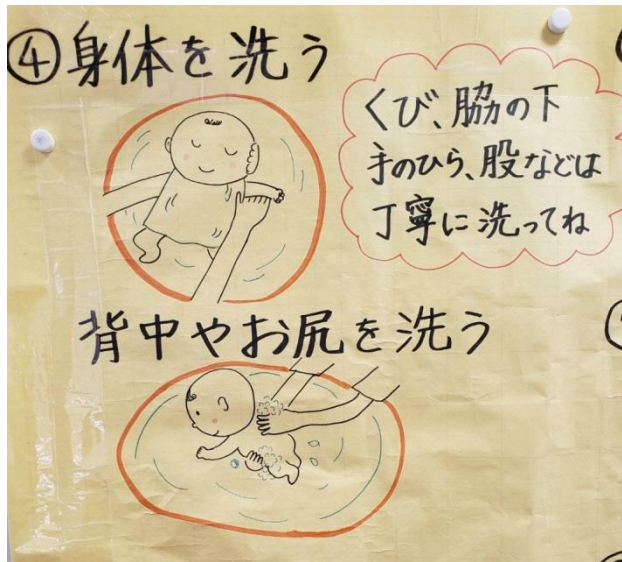


*お首がぐらぐらしているので、片方の手でしっかりとお首を支えます。もう一方の手を股の間からお尻全体にかけて支えながら抱っこをします。



* ガーゼや手で髪を濡らし、泡石鹸で頭皮や髪の毛の汚れを優しく撫で洗います。

* 汚れや泡石鹸を洗い流すときは、手やガーゼでバスタブのお湯でかけ流します。



* 赤ちゃんのお首の周りは、汗やミルクやよだれが溜まりやすい場所です。皮膚が折り重なっているので、丁寧に汚れを泡石鹸で撫で洗います。

* 汚れや泡石鹸を洗い流すときは、バスタブ内のお湯でかけ流します。



* 腕や脚は、ハンドルを持つような手の形を作り、前後に手首を回すように動かして洗います。

* 股の間の汚れは、手に泡石鹸つけ、お湯の中で優しく丁寧に洗います。



* 背中側を洗うために、赤ちゃんをうつ伏せの体勢にします。バスタブの湯面より赤ちゃんのお顔が上になるように気を付け

ましよう。バスタブの湯面に赤ちゃんのお顔がつかると息ができなくなります。

*うつ伏せの体勢にするやり方の一例です。



* 沐浴者の親指と人差し指を直角に開いてL字の形にし、赤ちゃんの脇に手を入れます。

* 反対側の手で赤ちゃんのお首を支えます。お首はぐらぐらしているので気を付けましよう。



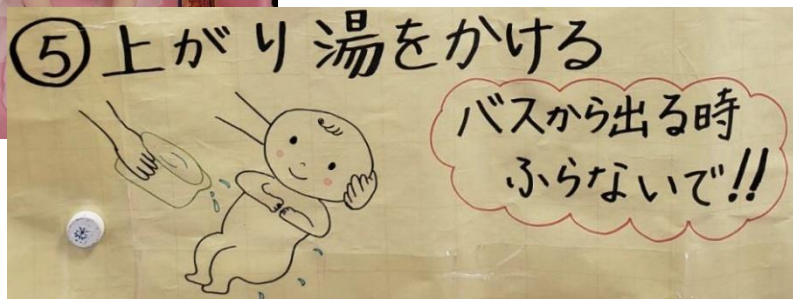
* 赤ちゃんの重心を、お首の下で支えている手から脇の下に入れてある手の方へ移動させながらうつ伏せの体勢にします。



* 赤ちゃんの脇の下に入れてある掌から手首で、赤ちゃんの胸全体からあごの下あたりを支えます。赤ちゃんのお顔が湯面につかないよう、お首がぐらついたり圧迫されないように支えます。

* 背中とお尻を泡石鹸で洗い、バスタブ内のお湯でかけ洗いします。

* 赤ちゃんのお首からお胸の辺りを片手で支えます。





* 指の間、頸や股のしわ等の皮膚が折り重なっている部位の水分を丁寧に拭き取ります。



* 掌に保湿剤をとってから赤ちゃんに塗ります。





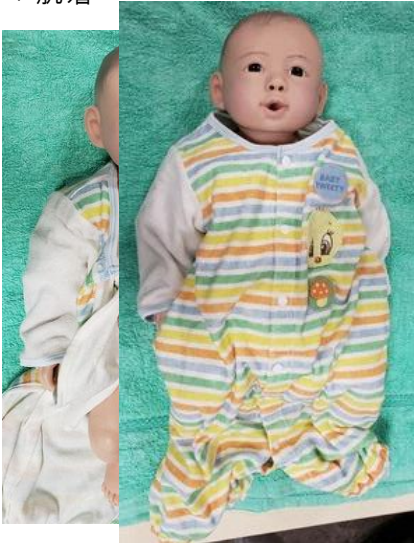
* 衣類は肌着とロンパースの袖口を事前に通しておき、1回で袖に手が通るように準備します。紙オムツも広げておきます。

* 赤ちゃんは複式呼吸です。オムツのお腹回りは指が2本入るくらいのゆとりをもたせます。脚回りのギャザーを整え、便が漏れるのを予防します。指1本位入るゆとりをもたせます。



* 肌着

とロンパースの袖口から沐浴者の手を入れます。



* 赤ちゃんの手と沐浴者の手をつなぎます。手をつないでない方の沐浴者の手で洋服を動かしながら袖を通します。肩や肘の関節が脱臼しないよう注意します。

* 髪の毛をとかします。ブラシタイプ、櫛タイプどちらでもよいです。



動かします。



* 綿棒を使って、お耳の水分とお鼻の水

分や鼻水を取り除きます。穴の入口付近のみの処置でよいです。

* 綿棒は、親指と人差し指の腹を前後に

動かします。穴の奥には入れないように

注意し、入口付近で回転するように



* 爪を切ります。ハサミタイプのもので使います。赤ちゃんが動いたり泣いているときは無理せず、寝ているときに処置しましょう。爪切りは1週間位を目安に行います。

* 最後にミルクや母乳をあげます。白湯はあげなくてよいです。

